

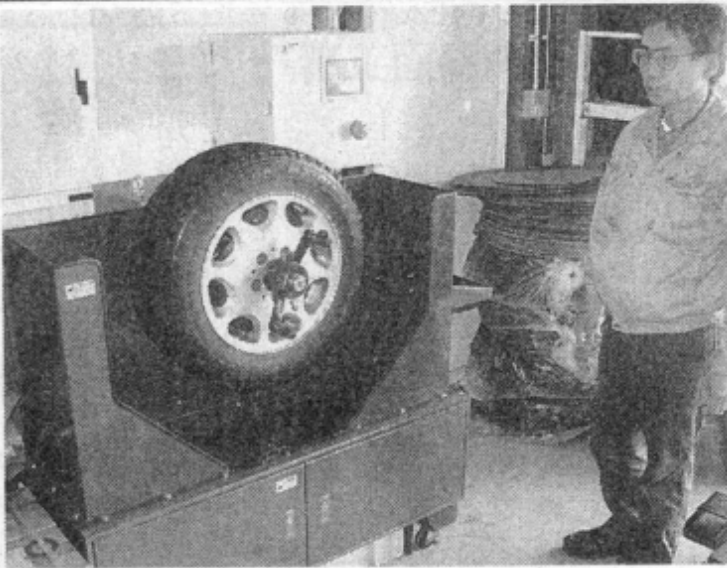
スタッドレスの表面を研磨

タイヤ再生機を開発

旭川の「イー・アイ・エス」問い合わせ続々

旭川市の機械設計業・「イー・アイ・エス」(松井隆社長)は、ゴムが劣化したスタッドレスタイヤの表面を研磨して摩擦力を回復するタイヤ表面再生研磨加工機「けんま君」を開発し、販売を始めた。同社は特許を出願中で、車両を大量に使っているロシア・サハリン開発に参加する企業などから問い合わせが相次いでいる。

(安本浩之)



スタッドレスタイヤの摩擦力を回復するタイヤ表面再生研磨加工機「けんま君」と松井社長

この装置は、中古タイヤを、モーターで回転させて、ゴムの劣化などで摩擦力が落ちたタイヤ表面をサンドペーパーで自動研磨する。タイヤのゴム表面を〇・二〇・三ミリの削り取ること、タイヤ表面にゴム気泡を露出させ、摩擦力を回復させる。夏用のタイヤについても、研磨によって偏った摩擦を解消できる。所要時間はタイヤ脱着を含め、十五分程度。最大直径八十センチのタイヤを研磨できる。機械は一台二百三十万円。

スタッドレスタイヤの溝は通常、九割程度。安全とされる三分の二以上の溝の高さが残っていても、表面のゴムの劣化で摩擦力が落ち、三、四センチ

以上で交換されることが多い。

このため、松井社長はタイヤ表面を削ること、劣化していないゴムの露出させ、摩擦力を回復させることを発案し、昨年七月から製造に着手。同十二月に完成した。第一号機は現在、旭川市末広東一の六、自動車部品店・オートレット旭川に貸し出し、タイヤ四本で三千四百円で研磨を請け負っている。

サハリン開発の企業からはタイヤを長持ちさせてコストダウンを図るため、また中古タイヤ販売業者からは中古タイヤ再生に活用しようと問い合わせが来ている。

松井社長は「二十人程度のモニター使用者からも好評です。研磨でタイヤの摩擦が最もいい状態にするために使用してほしい」と話している。